第35回経営審議会　議事要録

日　時：平成27年6月19日(金)　14:00～16：00
会　場：大学本館　Ｅ-７０３会議室
出席者：石原理事長、近藤副理事長、利島理事、片山理事、梶原理事、松尾理事、江本理事
　　平野委員、小林委員、髙宮委員、築城委員、熊谷委員
（オブザーバー）中野(昌)監事、中野(利)監事、漆原副学長、柳井副学長

議　案
１　平成２６年度計画に係る自己点検・評価について
２　平成２６年度財務諸表、決算報告書及び事業報告書について
３　平成２７年度補正予算について
４　認証評価に係る自己評価書について
５　学長選考会議委員の選出について
６　教職員の夏季期末勤勉手当について
７　同済大学との学生派遣に関する協定の締結について

報　告
１　平成２７年度入学者選抜試験の結果について
２　平成２７年度入試広報計画について
３　平成２６年度卒業生の就職状況について
４　北九大ブランド商品「ひびきのの杜」発売について

議案１　平成２６年度計画に係る自己点検・評価について

＜質疑応答＞
○入試広報の優秀な学生の獲得について、今回2.3倍で目標を下回っているが、要因の分析を行っているか。
○現在、分析を行っている。多少、入試問題を難しくしており、また、戦略的に合格者数を多くとっていることから、倍率が少し下がっている。
○平成26年度の就職率が平成元年以来最高となったということであるが、この中で北九州に就職した割合はどのくらいか。
○市内就職率は、全体の18.5%で、187名である。前年度から16名上回っている。全体では、1,013名就職している。
○主にどの地域に就職しているか。
○北九州市内が18.5%、福岡県内が495名で48.9%、福岡県以外の九州地区は11.9%、中国・四国地方が10.8%、関東地区が17.1%、近畿地区が6.8%、中部地方が2.8%、その他が1.8%である。
○市内の就職割合が少ない。
○シビアな評価をしているが、地域人材の養成の項目で、目標設定の到達割合が90%以上となっているが、具体的にどのように評価しているか。
○以前は地域創生学群の中で評価していたが、現在は外部で用いられている指標を基に評価している。しかし、こちらが測りたい内容と少しずれているため、今後評価方法については検討していきたい。他大学でも使用されている指標ではある。
○その指標ではいいと思うが、地域創生学群は北九州市立大学の特色であるため、ここを上げるための工夫をしていただきたい。
○学生のスキルが下がっているとは思わないが、評価指標として適切であるかどうかである。評価と、教員が学生を見た場合に乖離がある。教員から見ると、優秀な学生が多いという印象がある。ただ、自己評価により低めに評価する学生もおり、これが適切な評価指数かどうか検証する必要がある。
○地域社会を活用した学生の社会的自立について、高い評価をされているが、社会貢献活動は、学生の卒業後、継続性について、保っていくための仕組みづくりはされているか。
○地域教育共生センターでは、専任教員が配置されており、継続している。

○東日本大震災や広島の災害にも派遣されているようなので、是非継承していただきたい。
○地域教育共生センターを中心としたボランティア活動は、約20のプロジェクトが活動しており、1年生から4年生まで加わっている。学年別にプロジェクトを継承する仕組みとなっている。東日本大震災プロジェクトも、次回は第9次派遣となり、継続されている。継続する中で、変化等にも対応している。その他、単発のプロジェクトを除き、多くのプロジェクトが継承されている。続けることで地域の信頼を得ている。ボランティアに携わる学生は、学群だけでなく、全額で1,000名以上の学生が関わっている。
○プロジェクトに関わった学生が、卒業後、現役の学生と関わる機会はあるか。
○他大学の大学院に進学した卒業生が、帰ってきてプロジェクトに関わっている。まだ卒業生が少ないため、数は多くない。これからはこのような歴史を作っていく必要があると考えている。

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。
【委員】異議なし

議案２　平成２６年度財務諸表、決算報告書及び事業報告書について

＜質疑応答＞
○減価償却は行っているか。
○行っている。

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。
【委員】異議なし

議案３　平成２７年度補正予算について

＜質疑応答＞なし

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。
【委員】異議なし

議案４　認証評価に係る自己評価書について

＜質疑応答＞
○選択評価項目の中で、教育の国際化とあるが、留学生はキャンパス毎に何名ぐらいいるか。どこの国からの留学生が多いか。
○平成27年5月1日現在で留学生は253名である。北方キャンパスで137名、ひびきのキャンパスで116名である。国別にみると、多いところで中国が170名、韓国が41名、ベトナムが17名であり、あとは少数である。
○北方キャンパスには寮がなく、ひびきのキャンパスには寮があるという事か。
○そうである。
○北方キャンパスの留学生がひびきのキャンパスよりも多いという事であるが、北方キャンパスの留学生はどこに住んでいるか。
○民間のアパート等に住んでいる。
○大学が契約しているか、それとも個人が契約しているか。
○短期の留学生については大学が斡旋しており、一般の留学生については個人で契約している。
○北方キャンパスの留学生の寮については、現在検討しているところである。
○以前、「寮内留学」という言葉を発信していたが、全学でのグローバル推進が難しい部分もあるため、留学生と日本人学生を一緒に住まわせ、グローバル化を進めている大学が多い。ただし、経費がかかる。
○70周年記念事業の中で実施したいと考えている。
○各キャンパスで留学生に違いがあり、北方は学部生が多く、ひびきのキャンパスは大学院生が多い。ご指摘の通り、北方キャンパスでは、学部留学生が多いことから、寮を設置して、留学生と日本人をルームシェアできればと考えている。他大学でも取り組んでおり、人気が高いと聞いている。本学でも取り組み、グローバル化を推進していきたいと考えている。

○文部科学省が将来大学をいくつかに分類して形を変えようとしているが、そこを意識した取り組みは行うか。
○国立大学へ向けられたのは3パターンへの対応となり、かなり重要な内容である。一方で、文部科学省はグローバルと地方創生の事業がある。多くの大学は COC（センター・オブ・コミュニティ）を目指した大学を、設置団体と一緒に目指していくことになるだろう。本学は、第1期から地域を根ざした大学で、スローガンにも取り入れている。平成24年度からは文部科学省のグローバル人材育成推進事業に採択されている。さらに、同じく平成24年度には大学間連携事業にも採択され、ＥＳＤに関連して10大学で連携して取り組みを行っている。こうした事業に取り組む中、グローカルな視点の中で本学の位置づけは明確になっている。国立大学は、旧帝大のようにトップを目指す大学、何か特色のある大学、地域に根ざした大学の3パターンにどのように分けるか議論されている。

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。
【委員】異議なし

議案５　学長選考会議委員の選出について

＜質疑応答＞
○学長選考会議委員については、差支えなければ提案したいと思う。委員については、引き続き浦野委員と築城委員にお願いしたいと思うがいかがでしょうか。
○異議なし

【議長】浦野委員と築城委員を学長選考会議委員として承認してよろしいか。
【委員】異議なし

議案６　教職員の夏季期末勤勉手当について

＜質疑応答＞
○勤勉手当はどのような位置づけか。
○良好に勤務されたかどうかという内容である。通常通り勤務していれば満額支給する。

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。
【委員】異議なし

議案７　同済大学との学生派遣に関する協定の締結について

＜質疑応答＞
○派遣される学生は何人ぐらいを想定しているか。また、本人負担は発生するか。
○派遣の場合、授業料は本人負担となるが、奨学金等で支援され、負担が軽減される。
○人数は4名程度で考えている。

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。
【委員】異議なし

報告１　平成２７年度入学者選抜試験の結果について

＜質疑応答＞
○学生が私立大学に合格すると、本人だけでなく、保護者もそれで受験が終了すると聞いて驚いているが、私立大学と本学では金額が異なると思うが、他に理由があるのではないか。
○私学も学生確保に努力しており、入学金等をかなり下げている。以前に比べ、国公立大学との差は少ない。また、一人暮らしをする学生はアパートを決めなければいけないが、私学がかなり早い時期に決めさせており、そこまでめどが立っている状況である。さらに、今は保護者が学生の進路に以前に比べ関わっており、保護者の粘りも無くなってきたのではないかと考えている。
○私学の入試はいつ頃実施されるか。
○私学は入試回数が多く、2月まで実施される。

○一般的に8月からＡＯ入試、11月から推薦入試から始まり、私立大学は年内である程度入学者を確定させたいと考えている。
○以前、ＡＯで入学した学生は成績が悪いと言われてきたが、ＡＯで入学した学生は一般選抜で入学した学生よりも GPA が高いという調査が出ている。東北大学は３割まで増やすと検討している。入試のポートフォリオを選抜方法と合わせて入試改革が始まっていく。年内の割合をどうするか、という事が考えられる。
○ＡＯで入学が決定した後の問題がある。現在実施している入学前教育を丁寧に実施していかなければならない。以前は、ＡＯで入学した学生のＧＰＡは他と変わらなかったが、現在はよくなっている。また、ＡＯ入試は教員にかなりの負担がかかるため、費用対効果の問題もある。国立大学は学生に対する教職員の比率も高いが、公立や私立はその比率も低いため、負担がかかる。2020年には入試システムも変更になり、ＡＯ等の区分がなくなる。本学でも新しい入試システムへの対応は課題と考えている。
○平成24年をピークに志願者が減少している事は気になる傾向である。国立大学も3つのカテゴリーに分かれる。グローバルを選択する大学もあるが、地域の大学を選択してくる大学とは、方向性が似てくるのではないか。それらの大学とどう差別化していくか、広報も含めて課題になってくると考えている。
○ここ数年実質倍率が減少しているが、国立大学に近づいていると考えることもできる。中期計画を策定した時にも倍率を定めたが、それが縛りとなって評価せざるを得ない状況となっている。高校や進学予備校とも確認しながら、質のいい学生を確保したいと考えている。
○英米学科の評価の高さは、本学の売りではないかと思うが、学科の人数を増やして入口を広げることはできないか。優秀な人材が輩出される半面、入りにくいという問題がある。
○本学は、外国語学部を含めて5学部1学群ある。平成19年度に学部学科の編成を行い、第2期中期計画中の平成25年度にカリキュラム改変を行った。これから第3期中期計画を策定していく中で検討しないといけないのは、グローバルに対応する形で既存の学部学科でいいのかという事である。文部科学省の補助事業も平成28年度で終了する。このような状況の中、副専攻などのプログラムをどのように継続させていくかという事である。そこで、新しい学部学科再編も含めた仕組みづくりを副学長及び学長補佐が検討しているところである。学部学科のあり方だけでなく、定員も含めて議論していき、次の第3期中期計画では新しい体制でいきたいと考えている。既にグローバルに関しては他大学の調査を行っている。
○学部学科の定員増については問題がある。英米学科では TOEFL 等の到達目標を50％以上に設定しているが、平成25年度から26年度にかけてその割合が減少しており、他の学部同様、学生の二極化が進んでいる。学部学科を再編する中で、適正な質を維持することも考えていかなければならない。

報告２　平成２７年度入試広報計画について

＜質疑応答＞
○市内から約2割の学生が入学してきて、それ以外は県外、ほとんど九州内からと思うが、広報計画では、市内からの入学者を増やそうとするのか、それとも入学者の割合はこのままでと考えているか。
○市内、市外どちらかに偏ることは考えていない。今の高校生は地元志向が強いというのは傾向にあるので、まず地元を固めて、という思いはある。地元の高校生を対象としたサマースクール等のプログラムを実施している。しかし、それで県外の学生に対し手を尽くさなくていいという事はないので、今年は新たに山口県など高校訪問を広げて実施している。市内・県内と県外では、広報の質は変えているが、どちらにも新たな取り組みを行っている。
○市内からの進学者は2割であるが、市内の学生は、大学は市外に出たい傾向か。
○経済的な要因もあり、外に出たがらない傾向にあり、保護者も外に出したがらない。そのため、市内は大事にしていかなければならない。
○関東・関西は早期化しており、春のオープンキャンパスが主流となっている。学生が早めに進路先を決めるのであれば、秋ではなく、春に大学のファンづくりをすることが一つの方向性となるのではないか。秋では少し遅いのではないか。入学者調査をして秋のオープンキャンパスがなかったので、ほかの大学に決めたということであればいいが、私立大学とＡＯで約半数の学生が決定しているので、早めの学生取り込みがあってもいいのではないか。
○キャリアを決める時期が早い時期にシフトしている。秋のオープンキャンパスは、推薦入試を受験する学生が下見に来ているが、1,2年生のプログラムにシフトしている。高校1年生は、文

系・理系に分かれる前なので、総合的な学習中でどのようなキャリア教育を実施しているのか、高校から意見を聞いて協力していけるのか、その部分と広報を連携させていきたい。

報告３　平成２６年度卒業生の就職状況について

＜質疑応答＞

○全国平均と比較されているが、全国の公立大学では何番目か。あるいは、九州の大学では何番目ぐらいか。福井大学は国立大学で日本一の就職率と、パンフレットを作成して配布している。国立大学の就職率はほとんど変わらない。そういったことが広報戦略の一環となる。

○できるだけ他大学の就職率の把握に努めたい。

○他大学の公立大学の状況はわかるか。

○今年の日経ＨＲが出した「大学満足生活度ランキング」では、本学は九州地区ではトップで、全国では総合12位であった。こういった内容を把握しながら情報の把握に努めてまいりたい。

○全国の大学の就職率は発表されるか。

○大学別に発表される。

○国際環境工学部が過去に就職率100%、地域創生学群は3年連続100%で、日本一といえる。

○国公立大学全体の就職率は97.7%であり、本学はそれを上回っている。

報告４　　北九大ブランド商品「ひびきのの杜」発売について

＜質疑応答＞

○高島屋で「大学はおいしい」というフェアを実施している。全国の大学の研究室で生まれたブランド食品、教授と学生が開発に携わった大学発のうまいものを紹介する。新宿・高島屋で実施している。九州の大学でも何点か出店している。大学広報の方法はいろいろあると思うが、そういった機会を逃さないことが大事である。